

ACT FOR
2030
わたしたちと
SDGs
vol.5

SDGs(=持続可能な開発目標)は、持続可能でより良い社会の実現を目指す、世界共通の目標のこと。2030年までを「行動の10年」とし、市民一人一人まで行動することが求められています。この世界的な課題に、山形の学生はどうか。SDGsを視野に入れた取り組みや、日頃の活動とSDGsとの関わりについて紹介していきます。

山本学園高校(山形市)

SDGsと関連付けた探究学習



性別や国籍による 差別のない 平等な社会をめざして

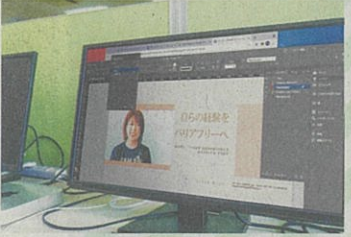


左から百田優女花さん、
小林悠那さん

読み手にとって親しみやすく読みやすいウェブマガジンを目標として、妥協することなく意見を交わす2人



2019年に県内で初めて1人1台のタブレットPC使用を実現するなどICT活用に先駆的に取り組む山本学園高校。多様化する未来社会を見据えた教育カリキュラムの再編を推進する中、SDGsと関連付けた探究学習にも力を入れています。



2人がパソコン上で制作を進めているウェブマガジン。8月末から山本学園高校のホームページで閲覧可能となる予定です

悠那さんと百田優女花さんのチームはSDGsの目標「5.ジェンダー平等を実現しよう」の達成を目指し、働く女性をテーマにしたウェブマガジンの発行に取り組んでいます。昨年度はそれぞれ、女性差別問題とLGBT(性的マイノリティー)の理解促進をテーマに探究活動を行っていた2人。テーマは違えど同じ目標に関わる探究に取り組んでいたことから、一緒に「女性の労働」について調査し、ジェンダー平等についてより理解を深めたいと本年度も探究活動を継続することを決めました。

2人は県内外の働く女性にインタビューを実施。大手企業で管理職として働く女性や、転職やUターン、産後復帰を経験した女性など、地位も境遇も異なる7人を選び、福利厚生を含めた労働環境や仕事のやりがいなどについて聞き取りを行いました。取材した女性たちの多様な働き方や考え方をより多くの人に知ってもらおう手段として「ウェブマガジン」を選択。今はインタビュー記事の執筆と編集作業を進めています。

小林さんは「性差別は普段意識しにくい問題。みんなが自分の言動や意識を見つめ直すきっかけをつくることで、平等な社会づくりへの理解を私たちの手から少しずつでも広げていければ」と語ります。そして美容専門学校への進学を希望しているという百田さんは「探究活動を通して、性にとらわれない『自分らしさ』というテーマにずっと向き合ってきました。美容師としてお客さまがその人らしさを貫けるスタイルを提案したい」と将来の夢を話していました。



取材対象者の話を真剣に聴く2人。2年次にはそれぞれ山形市議会議員や山形市役所職員、東北芸術工科大学の教授などヘインタビューを重ねジェンダー問題について考察を進めてきました



取材を受けた女性が2人にプレゼントしてくれたカトラリー。病気で食事に悩みを抱える人向けにその女性が開発したもので、2人にとって宝物になりました

